

地質図ライブラリー 20 年の歩み

地質情報基盤センターアーカイブ室¹

1. はじめに

地質図ライブラリーは、2005 年に開設され（菅原ほか、2005）、国内外の地質図をはじめとする地球科学図を約 12 万点収蔵している、産業技術総合研究所（以後、産総研）つくば中央図書室の書庫の一つです。地質調査所（1882 年創設）時代より継続的に地質図の作成・収集・アーカイブを行っている地質調査総合センターに所属する地質情報基盤センター（2005～2014 年は地質調査情報センター）が管理しています（第 1 表）。

2025 年に地質図ライブラリーは開設 20 周年を迎えます。

した。この 20 年間の歩みを振り返ってみたいと思います。

2. 地質図ライブラリーについて

産総研つくば中央図書室は、産総研つくば中央事業所 7 群 7-1 棟の 1 階から 4 階に位置しています。地質図ライブラリーはその 1 階部分を占め、国外で発行された地質図などを中心に収蔵し管理しています。地質分野に関する資料を集めた書庫は、この地質図ライブラリーに加えて 2 階から 3 階の A-D 書庫からなり、国内および国外の資料が収蔵されています。

第 1 表 地質図ライブラリーの 20 年の歩み。

年度	出来事	管理部署名
2005	地質図ライブラリー開設（2005年10月3日） ・災害関連展示開始（不定期開催）	地質調査総合センター 地質調査情報センター*
2006	・産総研一般公開参加（～2013）	
2007		
2008	・産総研オープンラボ参加（～2011）	
2009		
2010		
2011	・東北地方太平洋沖地震により3/14～5/31は閉室	
2012		
2013		
2014		
2015		地質情報基盤センター*
2016		
2017		
2018		
2019	・産総研一般公開参加 ・地質調査所初期出版資料デジタルアーカイブ公開 ・地質標本館連携展示開始	
2020	・コロナ禍により4/20～5/14は閉室、以後は国による行動制限に準じ閉室	
2021		
2022	・地質図ライブラリーの収蔵地図を用いて地質標本館グッズが作製される ・図書館総合展内「あなたも使える専門図書館」参加（～2024）	
2023	・地質の日関連展示開始 ・地質図ライブラリー企画展示開催	
2024		
2025	・産総研特別公開ラボツアー参加	

* 産総研組織内での名称変更、構成員は継続

¹ 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

キーワード：地質図ライブラリー、20 周年、地球科学図、デジタルアーカイブ、企画展示、地質標本館グッズ

第 2 表 企画展示の開催リスト。

企画展示の種類	開催期間	展示名
地質標本館連携展示	2019年10月1日～2019年11月1日	恐竜とアンモナイトー白亜紀の日本を語る化石ー
地質標本館連携展示	2019年10月8日～2019年12月27日	日本初！日本列島大分析 元素で見る「地球科学図」
地質標本館連携展示	2020年1月7日～2020年2月28日	めくってみよう！大地の図鑑ー山ロー
地質標本館連携展示	2020年7月7日～2020年9月18日	もっと知りたいチバニアン！
地質標本館連携展示	2020年9月15日～2020年10月30日	デスモスチルス…？とおもったら地質図ライブラリー！
地質標本館連携展示	2021年4月27日～2021年7月30日	千葉だけじゃないチバニアン期！～地質図にふれてみよう～
地質標本館連携展示	2021年4月27日～2021年7月30日	地図でみる断層と変動
地質標本館連携展示	2021年8月3日～2021年12月24日	南極の地質
地質標本館連携展示	2022年7月21日～2022年12月23日	所蔵資料でみる地質図のはじまりとそれから
地質標本館連携展示	2023年1月5日～2023年3月3日	地質図でみるテフラ
地質の日関連展示	2023年5月8日～2023年6月2日	見てみよう 触ってみよう 地質図!!
地質図ライブラリー企画展示	2023年8月24日～2023年9月29日	1923年関東大震災と地質調査
地質標本館連携展示	2024年5月10日～2024年8月30日	地質図でみる“なぞの温泉”『深部流体』ー有馬温泉と草津温泉ー
地質の日関連展示	2024年5月10日～2024年8月30日	予察地質図ってなに？ークリアファイルに隠された140年前の地質図ー
地質標本館連携展示	2025年1月14日～2025年4月18日	大規模火砕流堆積物分布図でみるテフラ2
地質の日関連展示	2025年5月7日～2025年8月29日	明治時代の地質図とヘリテージストーン
地質標本館連携展示	2025年12月2日～2026年1月30日	地質調査所とドクトル・ナウマン

地質図ライブラリーの開設によって、地図資料類の一元的な管理および系統的な閲覧が可能となり、利用者のみならず、管理担当者も保存・管理・提供の面で効率よく作業ができるようになりました(菅原ほか, 2005)。

日本はもちろん世界各地の地質図をはじめ多くの地球科学図を収蔵しており、これらは一般の方も利用が可能(事前予約が必要)で、デジタルアーカイブ GEOLIS でも一部をウェブ公開しています。特に、明治時代から 1945 年にかけて旧地質調査所で発行された出版資料については、地質調査所初期出版資料デジタルアーカイブとして 2019 年よりウェブ公開しています(第 1 表)。資料の電子化画像は国際規格 IIF (International Image Interoperability Framework) に対応して配信されており、2025 年末の時点で 983 タイトルの資料を閲覧することができます。

3. 地質図ライブラリーにおける普及活動

地質図ライブラリーでは、地質分野の研究紹介の一環として、開設当時より産総研が行う一般公開などのイベントに参加しています(第 1 表; 吉田, 2006; 住田ほか, 2010; 吉川ほか, 2012)。収蔵している地球科学図の紹介にとどまらず、地質という研究分野についてのわかりやすい説明を行っていました。2008 年から 2011 年にかけて、一般公開に加えてオープンラボにも参加しています(脇田ほか, 2008)。また、2012 年と 2013 年は地質調査総合センターに属する研究部門の展示のための会場として地質図ライブラリーが活用されました。

2011 年 3 月 14 日から同年 5 月 31 日までは、東北地方太平洋沖地震の影響で閉室しました。また 2014 年以降しばらくは産総研イベントへの参加を休止していましたが、2019 年の産総研一般公開では地質図ライブラリーの特別公開を行い、地質図の歴史や様々な地質図の展示を行いました。

2020 年から始まったコロナ禍により、2020 年 4 月中旬から 5 月中旬までは閉室を余儀なくされましたが、その期間以降は国による行動制限に準じ開室を続けました。産総研自体のイベントもコロナ禍で中止されていましたが、コロナ禍も明け、2025 年に行われた産総研特別公開におけるラボツアーに参加しています(佐藤ほか, 2026a)。産総研全体で 1669 名の方が来訪され、地質図ライブラリーでは 53 名の方々に様々な地球科学図や地質図の製作や活用方法、そして外国地質図を見学していただきました。

4. 企画展示の開催

2019 年からは、地質標本館で行われている企画展や特別展に合わせた連携展示を始めました。企画展や特別展のテーマに沿う形で、収蔵している地質図や書籍を展示し、2025 年まで 13 回開催しています(第 2 表)。

その他にも、5 月 10 日の地質の日に合わせて行う地質の日関連展示、地震や火山噴火などの災害に関連した地質図や資料の展示を行っています。

展示について近年ではウェブ公開も進めており、これが最大限に発揮されたのは 2023 年に開催した「1923 年関東



写真 1 2023 年地質図ライブラリー企画展示「1923 年関東大震災と地質調査」。

大震災と地質調査」です。地質調査所をはじめ各機関で行われた地震被害の状況調査や地質調査が記載された資料について、来室すれば直接手に取って閲覧ができ(写真 1)、来室できない場合もウェブ上ですべての資料を閲覧できるようにしました(企画『1923 年関東大震災と地質調査』, <https://www.gsj.jp/library/news/2023/08/20230824.html> 閲覧日: 2026 年 1 月 28 日)。資料の閲覧には、デジタルアーカイブ GEOLIS の機能を用いています。

2025 年に開催された地質の日関連展示「明治時代の地質図とヘリテージストーン」(佐藤ほか, 2026b)では、地質標本館とコラボしたツアー企画「館長が案内するヘリテージストーン」を実施し、地質標本館と地質図ライブラリーの展示を研究者の説明とともに見学していただきました(佐藤ほか, 2026c)。

5. 地質標本館グッズ作製や図書館総合展への参加

2022 年より、地質図ライブラリーに収蔵されている地質図をもとにして、風呂敷とクリアファイルが地質標本館グッズとして作製されています(第 1 図)。風呂敷は、日本列島全体が初めて図示された地質図「300 万分の 1 日本群島地質図」(原田豊吉作製; 農商務省地質局, 1889)を用いて作製されました(中島ほか, 2022)。クリアファイルは、表面のプリントが 20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2(産総研地質調査総合センター, <https://gbank.gsj.jp/seamless/> 閲覧日: 2026 年 2 月 5 日)で、一枚めくった内面のプリントが明治時代に発行された地質図になっています。両者はぴったりと重なるようにプリントされており、クリアファイルをめくりながら地質図の変遷を体感で

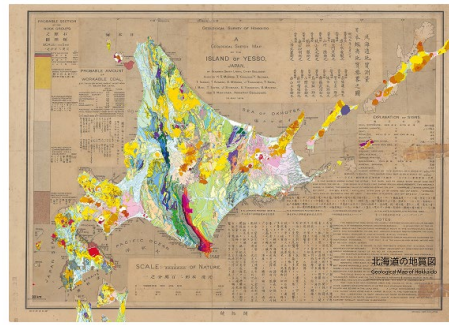
きるアイディア製品です。最初に作製されたクリアファイルは北海道で、内面には日本で一番古い広域地質図である 200 万分の 1 日本蝦夷地質要略之図(来曼^{ライマン}ほか, 1876)がプリントされています(第 1 図)。その後、2023 年に中部、2024 年に東部と東北部、2025 年に西部と西南部が作製され、日本のすべての地域の地質図の変遷が楽しめるグッズとなりました。この中部、東部、東北部、西部、西南部の範囲は、1886 年から 1895 年にかけて発行された 40 万分の 1 大日本帝国予察地質図(例えば山田, 2008)のエリアに相当し、中部は中部・関西地方、東部は関東甲信越地方、東北部は東北地方、西部は中国・四国地方、南西部は九州地方をカバーしています。

2022 年から 2024 年まで、図書館総合展の特集企画である「あなたも使える専門図書館」にも出展しました。一般に開放されている全国の専門図書館が出展し、図書館総合展の参加者が会場にて各館のパンフレットを手にとることができるイベントです。2022 年と 2024 年はトークイベントにも参加し、オンラインで地質図ライブラリーの紹介を行いました。

6. おわりに

地質図ライブラリーは産総研つくば中央図書室の書庫として始まりましたが、20 年の歳月を経て、書庫としての利用に加えて上記のような展示施設としても活用されています。

今後も引き続き収蔵データやデジタルアーカイブの公開を促進し、地質分野の普及を担う産総研つくば中央図書室の 1 つの場所として、より多くの方に利用していただける



第1図 地質図を用いた地質標本館グッズ。左：風呂敷（縦70 cm×横68 cm；中島・都井，2022），右：クリアファイル（A4サイズ；瀬戸口ほか，2023）。

ように努めていきます。

2014年以前の地質図ライブラリーの様子について、地質情報基盤センターの山谷忠大氏より情報をいただきました。

文 献

邊士來曼・顯士門老・山内 徳・秋山美丸・稲垣 徹・桑田知明・三澤思襄・高橋讓三・賀田貞一・坂市太郎・齊藤武治・島田純一・山際永吾・前田精明・西山正吾（1876）日本蝦夷地質要略之図，二百万分之一。開拓使。

中島 礼・都井美穂（2022）風呂敷 日本群島地質図（明治22年刊行）。地質調査総合センター研究関連普及出版物，no. 212。

中島 礼・都井美穂・瀬戸口 希・常木俊宏（2022）地質標本館グッズ「日本群島地質図 風呂敷」と大日本帝国地産要覧図。GSJ 地質ニュース，11，297-298。

農商務省地質局（1889）大日本帝国地産要覧図。農商務省地質局，48p。

佐藤 努・宇都宮正志・中村佳博・常木俊宏・比田 茜（2026a）産総研特別公開 2025 における地質図ライブラリーラボツアー開催報告。GSJ 地質ニュース，15，235-237。

佐藤 努・鈴木浩子・都井美穂（2026b）地質図ライブラリー地質の日関連展示「明治時代の地質図とヘリテージストーン」。GSJ 地質ニュース，15，37-40。

佐藤 努・中澤 努・常木俊宏・福田和幸・比田 茜・瀬戸口寛樹・藤原智晴・佐田朋子・宮原祐子・鈴木浩子・都井美穂（2026c）「館長が案内するヘリテージストーン—筑波山塊の花崗岩と地質図」の開催報告。GSJ 地質ニュース，15，46-49。

瀬戸口 希・都井美穂・吉川敏之（2023）クリアファイル 地質図。地質調査総合センター研究関連普及出版物，no. 230。

菅原義明・中沢都子・渡部真寿美（2005）地質文献データベースの進化と地質図ライブラリーの公開—地質文献情報活動から—。地質ニュース，no. 615，35-38。

住田達哉・伊藤順一・名和一成・宮地良典・七山 太・高田 亮・伊藤 忍・吉川秀樹・大和田 朗・佐藤卓見・福田和幸・中澤都子・今泉博之・今西和俊（2010）産総研一般公開，地質分野有志企画「ジオ ドクトル 2009」コース。地質ニュース，no. 671，8-12。

脇田浩二・飯村一清・吉川敏之（2008）産総研オープンラボ—第7事業所での公開状況—。GSJ ニュースレター，no. 50，8。

山田直利（2008）ナウマンの「予察東北部地質図」—予察地質図シリーズの紹介 その1—。地質ニュース，no. 652，31-40。

吉田朋弘（2006）産総研つくばセンター一般公開における地質分野の活動。地質ニュース，no. 627，6。

吉川秀樹・七山 太・目代邦康・重野聖之・新井翔太・矢口紗由莉・生見野々花・成田明子（2012）2011 年度産総研一般公開チャレンジコーナー “ジオトイと砂遊びから学ぶ大規模自然災害” 実施報告と今後の課題。GSJ 地質ニュース，1，213-216。

Information Resources Office, Geoinformation Service Center (2026) 20-year history of Geological Map Library in Geological Survey of Japan.

（受付：2026 年 2 月 26 日）